

自然・避暑地・名所…のさらに先へ
知れば知るほど、魅力が深まります！

信州の魅力を広めたい！地図で読み解く長野の素顔
『長野のトリセツ』を1月28日発売

～地元の支持率高い地図解説本シリーズ最新刊が、信越地方に初上陸～

株式会社昭文社ホールディングス（本社：千代田区麹町、代表取締役社長 黒田茂夫、東証コード：9475）とその子会社である株式会社昭文社（本社：千代田区麹町、代表取締役 清水康史、以下昭文社）は、マップエンターテインメント企画本『長野のトリセツ 地図で読み解く初耳秘話』を、2021年1月28日より発売しますことをお知らせいたします。

地元の支持率高い「トリセツシリーズ」の最新刊となる本書は、信州・長野県を取り上げ、地形や地質、鉄道、歴史、文化と産業など多彩な魅力を地図で読み解きながら、信州のさまざまな一面を探っていきます。

)) 本書の概要 ((

シリーズ共通の構成を用いて、「絶景『空撮』グラビア」+「地図で読み解く長野の大地」「長野を駆け抜ける鉄道網」「長野で動いた歴史の瞬間」「長野で育まれた産業や文化」の4章立てとなる本書は、40個以上の小テーマから、長野の素顔に迫ります。地元民が親しみやすいご当地ネタが満載のほか、全国的に名が知り渡っている長野の〈あれこれ〉も収録している、読み応えのある一冊となっています。

)) 本書の注目記事 ((

|| 地形編⇒対照的な地形と海時代の証拠／急崖と川が守る上田城の強さ

- ・日本の屋根とも呼ばれる「日本アルプス」がそびえる長野には、8割超を占める山地と、対照的な盆地地形も発達しています。その一方、臨海地がまったくない「海なし県」の長野にも、あらゆる場所に海洋生物の化石が刻み込まれて、かつて海があった確かな証拠も発見されています。
- ・徳川を二度破った真田家の堅城上田城。この城での防衛戦は、真田家の知略に長けた戦いを現代に伝えています。考え抜いて築かれた上田城の強さには、地形や地質も深く関与しています。



<表紙>



<「対照的な地形と海時代の証拠」ページ例>



<「急崖と川が守る上田城の強さ」ページ例>

2021年1月21日 株式会社 昭文社ホールディングス
株式会社昭文社

交通編⇒北陸新幹線らしい特徴とは/JR 最高点をいく小海線の魅力

- ・長野行新幹線として産声を上げた北陸新幹線は、ほかの新幹線にない問題を抱えていました。それを克服するため、設備や車両は特別な仕様が施されています。
- ・高原鉄道の趣がある小海線は、JR 線でもっとも標高が高い場所を走る路線として知られています。ところで海なし県の長野にあって、「海」の文字が入った小海線という名称は、なぜ付けられたのでしょうか？



＜「北陸新幹線らしい特徴とは」ページ例＞



＜「JR 最高点をいく小海線の魅力」ページ例＞

歴史編⇒二大英雄が激戦を演じた川中島/松本城が直面した取り壊しの危機

- ・戦国大名甲斐の武田信玄と越後の上杉謙信。両雄が直接対決した合戦は「川中島の戦い」の名で知られています。そもそも北信の川中島で激突することになったわけとは？
- ・地元のシンボルとして親しまれる国宝・松本城。実は明治維新の直後に全国のほかの城と同様、取り壊しが決まっていたましたが、多くの松本の市民たちが働きかけ、募金や私費を投じたことによって、解体の危機から救われました。



＜「二大英雄が激戦を演じた川中島」ページ例＞



＜「松本城が直面した取り壊しの危機」ページ例＞

産業・文化⇒天体観測の聖地は長野にあり

- ・森林面積が県の約 8 割を占め、県内の標高が平均 1,000mを超える長野県は、天体観測にはもってこいの条件が整っています。そのため、天文好きに魅力いっぱいの天体観測施設がたくさんあります。長野県はまさに「宇宙県」と呼ぶにふさわしい県なのです。



＜「天体観測の聖地は長野にあり」ページ例＞

